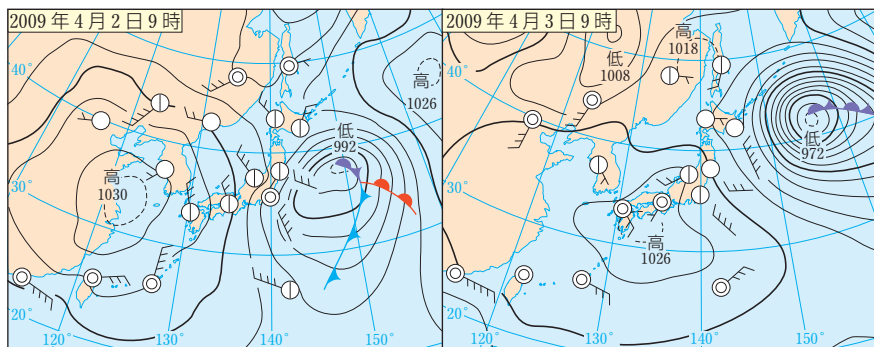


## C 周期的な天気の変化

春には、偏西風の影響により、温帯低気圧と移動性高気圧が交互に西から東に通過し、日本付近では3～5日程度で周期的に天気に変化するようになる。秋も同様である。

- 5 温帯低気圧の通過直後は北から比較的冷たい空気が流れ込んで気温が低くなるが、高気圧に覆われるとよく晴れてしだいに気温も上がる。特に高気圧の西側は南からの暖かい空気が流れ込んで気温が高くなる。次の温帯低気圧が接近すると雲が広がり雨になる。このように、天気の変化とともに気温も周期的に変化する。温帯低気圧の通過後、高気圧に覆われて夜間に晴れ放射冷却が起ると(→ p.124)，<sup>おそじも\*1</sup>遅霜などが発生する場合もある。
- 10



▲図4 移動性高気圧 温帯低気圧が通過し、3日には西から進んできた移動性高気圧が日本付近を覆い、広い地域で晴れとなった。

### 参考 黄砂

春に大陸の内陸部にあるタクラマカン砂漠やゴビ砂漠、<sup>おうど</sup>黄土高原などの乾燥地帯で温帯低気圧が発達し、強い風で<sup>さじん</sup>砂塵を巻き上げると、その砂塵のうち、非常に細かい粒子が高度5000m以上の上空に舞い上がり、偏西風に流されて日本や太平洋まで飛んでくることがある。これを<sup>こうさ</sup>黄砂という。黄砂に覆われると、空が白くけむり遠くの景色がかすんだようになる。黄砂が濃いときには黄色くかすむこともある。特に西日本で顕著に見られる現象である。

\*1 秋にも同様にして霜が降りることがあり、<sup>はやじも</sup>早霜という。